

**2011年 夏季指導者研修会資料**  
**ミニラグビーのレフリーをしよう**

2011年8月29日

神奈川県ラグビーフットボール協会  
普及育成委員会ラグビースクール担当  
コーチソサエティ（CS）部会

## ■ もくじ Contents

■ もくじ Contents.....	2
■ はじめに Foreword .....	4
■ 準備 Preparations.....	5
1. 試合前 Before the match .....	5
2. 試合直前の準備 Preparations just before the match.....	5
3. ブリーフィング Briefing.....	6
■ セットプレー Set play.....	7
1. キックオフ Kick-off .....	7
2. トライ後のキックオフ Restart Kicks .....	7
3. スクラム Scrum .....	8
4. ラインアウト Line-out .....	10
5. ゴールキック Conversion Goal.....	11
■ 一般のプレー General Play.....	13
1. キック Kick.....	13
2. ノックオン・スローフォワード Knock-on and Throw-forward.....	14
3. インゴール In-Goal.....	14
4. モール Maul .....	14
5. ラック Ruck .....	16
6. タックル Tackle.....	17
7. アドバンテージ Advantage.....	20
■ ゲームマネジメント Game management .....	21
1. コミュニケーション Communication .....	21
1-1. ホイッスル（笛）の吹き方 How to use whistles.....	21
1-2. 声かけ Call out to player.....	21
1-3. レフリーシグナル Referee signals .....	21
1-4. 良い位置にいる為に For good positions.....	22
2. コントロール Game control .....	22
3. タッチジャッジとの連携 Team of three.....	23
■ その他 Others .....	24
1. 5メートルルール 5 meters rule .....	24
2. フライキック Fly-kick .....	24
3. ペナルティキック・フリーキック Penalty kick ・Free kick .....	24
4. 危険なプレー Dangerous play.....	24
5. 高学年（5／6年）中学年（3／4年）低学年（1／2年）との ルールの違い Difference of rule at the u12 and u10.....	27

■タッチジャッジ Touch judges .....	28
1.準備 Preparations .....	28
2.セットプレー Set play .....	28
3.旗を上げるとき Put up flag .....	29
■あとながき Afterword .....	30

## ■はじめに Foreword

神奈川県ラグビーフットボール協会普及育成委員会ラグビースクール担当では、ミニラグビーのレフリーをしていただく為に、県協会レフリー委員会のC級のテストとは別に、ミニラグビーのレフリーの育成を行っています。

ご存知のようにミニラグビーは試合数が多く、それに伴ってレフリーも必要になってきます。コーチの方の兼任は免れませんので、スクールでコーチをされているひとりでも多くの方が、ミニラグビーのレフリーとなられて実際に試合で笛を吹かれることを望み、このような資料を作成しました。

この資料は、競技規則ではありません。レフリングのためのひとつの基準を示したもので、あくまでも指針でしかありません。最終的な判断は、レフリー一人一人の判断に委ねられます。

最初はどうしても、ミスをしないか、上手く吹けるかと不安ばかりですが、レフリングは習うより慣れろです。プレーヤーが楽しめること、観客が楽しめること、そしてレフリーが楽しめることを目標に、失敗を恐れずにどんどん笛を吹いてください。

各スクールのコーチソサエティ(CS)を担当されている方は、皆さん優秀な方ですので、分からないことがあれば、皆さんのチームのコーチソサエティ(CS)の方に聞かれたり、チーム内の試合形式の練習などで、アセスメントをしてもらうのもよいでしょう。

「レフリングチェックシート」は、この資料の内容をチェックシートの形でまとめたもので、

- ・レフリーをされる方がセルフチェックをおこなう
- ・アセッサーの方がレフリーをアセスメントする

ことが出来るように作成してあります。

このチェックシートの項目を確認されてレフリーをされ、不明な点はこの資料をお読みくだされば良いように作成してありますのでご活用ください。

## ■ 準備 Preparations

### 1. 試合前 Before the match

- (a) シーズンの初めには必ず競技規則を読んでください。競技規則は毎年更新されますので出来れば最新のものに目を通します。  
ミニラグビーのルールに書かれていないことは他のカテゴリーの競技規則の該当する条項に準じます。
- (b) レフリーは双方のチームに似た色のジャージを着用しないようにしてください。神奈川県のリフリージャージを着用すると良いでしょう。  
服装はジャージ・パンツ・ストッキングとスパイクのフル装備をするように用意してください。  
夏はTシャツ、冬はウォームアップを着用された方を見ますが、正しい服装をするようにして下さい。
- (c) 笛は、できればアクメ社製の金属のものを使ってください。この笛の音がラグビーに適しています。かん高い音色のものは、プレーヤーの神経を高ぶらせてしまいます。笛は首から下げるのではなく、手首につけるようにしてください。また、予備の笛を用意しておくことを勧めます。
- (d) 金属製の腕時計・バンドは子どもたちを傷つける可能性がありますので着用しないようにしてください。ストップウォッチ、タイマー機能のついた薄めの腕時計がよいでしょう。
- (e) スコアカードを入れる為、ジャージまたはパンツにポケットのあるものを出るだけ着用するようにしてください。ポケットの無い場合は、ストッキングにしまうことも出来ますが、これは緊急の場合と考えてください。
- (f) スパイクは、ポイントが合成樹脂製、いわゆるプラスチックの固定式のものかゴムの突起状のものにします。大人の着用するアルミのポイントのものは子どもたちを踏んで怪我をさせる可能性が高くなりますので着用しないようにします。

### 2. 試合直前の準備 Preparations just before the match

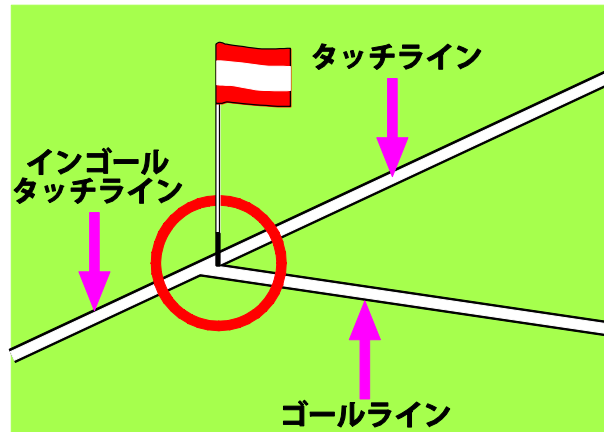
- (a) レフリーの目でグラウンドを確認してください。タッチライン・ゴールライン・デッドボールライン・10メートルライン (= 15人制の22メートル

ライン) の位置は勿論、ラインアウトの3メートルラインと8メートルラインも頭の中で確認してください。

インゴールの幅や余分な線がないかどうかも見てください。

グラウンド内に危険な場所や物が無いかの確認もしてください。

### コーナーフラッグの位置



- (b) グラウンドに必要な線を引けないことが多いので、10m・5m・3mの距離感をつかんでおいてください。
- (c) 十分なウォームアップを行うようにしてください。試合中に足が攣ったり、怪我をしないこともレフリーの大切な仕事です。

### 3. ブリーフィング Briefing

- (a) 県大会の場合は、開始15分前(前の試合のハーフタイム)に行います。両チームのキャプテン・タッチジャッジが集合します。トスでキックオフとサイドを決め、試合球を選びます。レフリーはスコアカードにチーム名等必要事項を記入しておきます。
- (b) キャプテンに、安全面からの注意事項として、ハイタックルなどの危険なプレーを説明し、その際はペナルティーとなり早いリスタートはないことを宣言します。
- (c) また、ゴールライン・デッドボールライン・タッチラインを覚えておいて下さい。この場で競技委員から注意事項を伝達される場合もあります。注意事項の確認をおこなってください。

- (d) タッチジャッジに、キックオフまでにプレーヤーの服装・つめ・スパイク（固定式であること）の点検をするように指示してください。  
タッチジャッジに対してスクラムの3m、ラインアウト・ペナルティーでは5mのオフサイドの位置をしっかりと示すようあらためて指示してください。

## ■セットプレー Set play

### 1. キックオフ Kick-off

- (a) 双方のプレーヤーの人数を数えてください。  
相手側は、ハーフウェイラインから5メートル下げて布陣させます。
- (b) キッカー側のプレーヤーがボールより後にいることを確認してください。  
前にいるプレーヤーにはボールより下がる（キッカーズ バック）ように指示します。
- (c) レフリーは相手側の態勢が整ったのを確認し、双方に“いいですか（レディー）”と声をかけ、時計をセットし、大きな音で笛を吹きキックオフをさせます。  
時計のセットが済んだら、動いているのを確認してください。
- (d) 高学年には、ドロップキックを行わせます。  
中学年は、できるだけドロップキックを行わせますが、技術が未熟な為どうしてもドロップキックが出来なければ、パントキックかブレースキックを行わせます。

#### 《神奈川県申合せ事項》

防御側の態勢が整う前に蹴ってはいけません。その場合はやり直しにします。  
防御側の守備態勢ができるまでキッカーの前に立ち、キッカーを抑えながら防御側キャプテンに確認をしてからキックさせるのがよいでしょう。

### 2. トライ後のキックオフ Restart Kicks

- (a) トライした側がキックをします。  
15人制の試合とは反対ですが、相手側に攻撃権を与えるためです。
- (b) キックオフと同様に、相手側はハーフウェイラインから5メートル下げて布陣させ、キッカー側のプレーヤーがボールより後にいることを確認してくだ

さい。

- (c) トライをされたチームには、ゴール下から守備につくまでの時間的な余裕を与えなければなりません。  
レフリーは相手側の態勢が整ったのを確認し“いいよ”と声をかけるまでキッカーを制御するようにすると良いでしょう。

### 3. スクラム Scrum

- (a) レフリーは、スクラムのシグナルの後に、片足でスクラムが組まれる地点を示します。  
フォワードの選手を集めしっかりバインディングをさせ、“クラウチ” “タッチ” “ホールド” “エンゲージ” の4段階で声をかけスクラムを組ませます。“エンゲージ”にアクセントをもたせます。  
頭が腰より低くならないように注意して、頭を交互に組み合い内側にいれるようにさせます。

防御側ボックスのオフサイドラインはスクラムを組んでいる味方プレーヤーの一番後方の足から3メートル下がったゴールラインに平行な線です。  
タッチジャッジがオフサイドラインを指示しているかを確認してください。  
防御側のハーフのオフサイドラインはスクラムを組んでいる味方プレーヤーの一番後方の足を通りゴールラインに平行な線です。ただし1メートル以上離れるプレーヤーはボックスと見なされますので、フォワードのお尻に手を置くことによって1メートル以内のオンサイドに立っていることとします。  
防御側のハーフの足の位置はオフサイドラインより後ろにあることを確認してください。

- (b) 高学年のスクラムでは、攻撃側ボックスにも、スクラムの最後尾から3メートル下がったところにオフサイドラインが設けられますので、タッチジャッジが攻撃側と防御側の双方のオフサイドラインを指示しているかを確認して下さい。
- (c) ノンコンテストスクラムでボールの取り合い、押し合いはありませんので、相手側はフッキングをしてはいけません。相手側がフッキングをした場合は注意をして、やり直しにします。
- (d) 高学年のスクラムでは、ハーフは、スクラムの中央の線上に立ち、ボールを



- タッチラインと平行になるよう両手で持ち、まっすぐボールを投入します。
- (e) 中学年、低学年のスクラムではボールを投入しません。かわりにフッカーの右足元(つま先の前)にボールを置きます。  
ボールをフッカーが右足の裏で後方に押し出すことでプレー再開とします。
- (f) 高学年のスクラムの解消は、ハーフがボールに手を触れたときです。  
このレベルでは、ハーフがスクラムの中にあるボールに手を掛けた場合でもピックアップの反則は採らずに、スクラムの解消と考えてください。  
ハーフが故意ではなく最初にボールをプレーできなかったときも、スクラムの解消となります。この場合はいかなるプレーヤーもボールに働きかけて構いません。  
ハーフがボールを持って前進しても構いません。(いわゆるハーフのモグリはOKです)
- (g) 中学年のスクラムの解消は、ハーフがボールをパスしたときです。ハーフは必ずボールをパスアウトしなければなりません。(ハーフのモグリはしてはいけません)
- (h) 低学年のスクラムの解消は、ハーフのパスをバックスがキャッチした時です。
- (i) フッカーが相手側にボールを蹴ってしまい、相手側にボールが出た場合はそのままプレーを続行します。
- (j) レフリーはボールの投入側に立ち、ハーフの投入を確認したら、速やかにスクラムの攻撃側斜め後方に下がるのが良いでしょう。  
この位置は、ハーフのノックオン等の反則が見やすいのと防御側のオフサイドを制御しやすいのです。  
“まだだよ”“解消”等の声をかけることでバックスのオフサイドを制御し、反則をさせないようにします。  
スタンドオフがブラインド側に走ってくる。ブラインドウイングにボールが回るなどのケースがありますから邪魔にならないように注意します。  
また、ゴール直前でのスクラムの場合、高学年はハーフがボールを持って飛び込む場合がありますからその気配が見えたらインゴールに素早く入るようになります。

#### 4. ラインアウト Line-out

- (a) 多くのグラウンドでは3メートルラインは引かれていません。  
レフリーは自分の歩幅で計測して並ばせます。また、双方のラインアウトプレーヤーともラインオブタッチから50センチ以上離れるようにしてください。
- (b) スローイングは双方の頭と頭のあいだ、ラインオブタッチ上真直ぐに投げさせるようにします。曲がった場合、一回目は注意をしてからやり直しにするのが良いでしょう。繰り返された場合、タッチラインから8メートルの地点で相手側のボールでスクラムにします。
- (c) 中学年は次のように行かせます。途中で失敗したらやり直させて下さい。  
(ア) ボールの競い合いはなく、必ずボール投入側がジャンプしてボールを取る。  
(イ) ボールを取ったプレーヤーは必ずハーフバックにボールをパスしなくてはならない。  
(ウ) ハーフバックがボールをパスした時点でラインアウトは終了する。
- (d) 高学年、中学年のラインアウトのボックスのオフサイドラインは、ラインオブタッチから5メートルです。  
タッチジャッジはボールがタッチになったポイントを指示したあとは、自分のチーム側の5メートルの位置に移動してオフサイドをしないよう旗を持っていない手を水平に上げて指示します。
- (e) 低学年はラインアウトを行わず、タッチの地点より味方にパスを行います。相手側プレーヤーをタッチになった地点から3メートル下がらせます。
- (f) レフリーはタッチライン寄りの、攻撃側に立つのが良いでしょう。  
この位置だと防御側のオフサイドが見えやすいと思います。“まだだよ”“解消”等の声をかけることでオフサイドを制御し反則をさせないようにします。ラインアウトの後方にはなるべく立たないでください。後方に位置する場合は主にラインアウトプレーヤーの相手プレーヤーに対する反則（バージング＝相手を押す反則）などをみる場合に立ちますが、プレーがごちゃごちゃに見えてしまう場所なので、ボールが投入されたらレフリーは別のポジションへ移動するようにします。  
ゴールライン直前の場合はインゴール側に立ち、トライを見逃さないように

します。

- (g) ラインアウトの開始。ラインアウトは、ボールを投入するプレイヤーの手からボールが離れたときに開始します。
- (h) ラインアウトの解消。これは、覚えておいてください。あえて日本協会のミニラグビー競技規則を掲載します。

【中学年限定】

ハーフバックがボールをパスした時点でラインアウトは終了する。

【高学年限定】

- (ア) ボールをもったプレイヤーがラインアウトの列から離れたとき。
  - (イ) ボールまたはボールをもったプレイヤーが3mラインとタッチラインの間、あるいは8mラインを超えて移動したとき。
  - (ウ) ラインアウトでモール・ラックができた場合、その密集に参加しているすべてのプレイヤーの足がラインオブタッチを越えて移動したとき。
  - (エ) ラインアウトの列から自陣方向にパス・キック・タップされたボールにハーフバック役のプレイヤーが触れたとき。
- (i) クイックスローインは認められています。  
タッチの笛を吹くと、クイックスローインを止めることになるので、プレイヤーがクイックスローインをする様子が無い場合、他のボールが使われたとき、投げ入れるプレイヤー以外の者が、タッチに出たボールに触れたときには、クイックスローインは認められないので笛を吹き、改めてラインアウトを行ないます。
  - (j) ノット3メートルに気をつけてください。一回目は注意をしてやり直させるのがいいでしょう。  
多くのグラウンドでは3メートルラインが引かれていません。レフリーが“ここより前に出てはだめだよ”と指示をしてあげると良いでしょう。  
罰 ノット3メートル・フリーキック

## 5. ゴールキック Conversion Goal

- (a) キッカーより後ろに立ってください。日差しのあるときは自分の影がボールの近辺にうつらないようにしてください。また、キッカーの視野に入らないように注意します。遠くでみるのは良くありません。  
タッチジャッジもゴール成功の旗を揚げますが、あくまでも最終決定者はレ

フリーです。蹴られたボールを追いかけて自分の目でゴールを確認するようにしてください。

ゴールが成功したときにはトライと同じように大きな音で笛を吹き、“ゴール”のコールとレフリーシグナルをします。

## ■一般のプレー General Play

### 1.キック Kick

- (a) 高学年、中学年の戦略的なキックはどの位置から行ってもかまいません。  
ただし、低学年はタップキック以外のキックは禁止です。
- (b) 10メートルライン（＝15人制の22メートルライン）の内側から蹴られたボールが直接タッチに出たときは、一度フィールドオブプレー内に接地した後、転がってタッチに出たときと同様に、ボールが出た地点で相手側ボールのラインアウトとなります。
- (c) 10メートルライン（＝15人制の22メートルライン）を越えた地点で蹴られたボールが直接タッチに出た場合は、ダイレクトタッチとなり、蹴った地点に戻されて相手側ボールのスクラムとなります。  
（15人制はラインアウトですがミニラグビーはスクラムで再開です。）
- (d) ボールが蹴られたとき、前方にいる味方のプレーヤーはすべてオフサイドの位置となります。  
オフサイドの位置にいるプレーヤーはオンサイドになるまでプレーしたり、相手を妨害してはいけません。  
罰 オフサイド・ペナルティキック  
レフリーは落下地点に急ぐとともにこの状況を見ます。
- (e) キッカーがキックをした直後、レートタックルをされることがあります。  
レフリーは、レートタックルをケアしてからキッカーの前にいるオフサイドプレーヤーを見るようにします。
- (f) 5メートル規制によるオフサイド（＝15人制の10メートル規制によるオフサイド）のプレーヤーは味方プレーヤーによるオンサイドになる場合の他、相手側のいかなる行為によってもオンサイドにはなりません。このプレーヤーは想定される5メートルラインの後方に移動しなくては行けません。  
罰 5メートル規制によるオフサイド・ペナルティキック
- (g) 蹴られたボールが前方の味方プレーヤーに当たった場合は、アクシデンタルオフサイドとなり、キックした側に利益があればその地点で相手側ボールによるスクラムとなります。

## 2. ノックオン・スローフォワード Knock-on and Throw-forward

- (a) ミニラグビーではノックオンとスローフォワードが良く起こります。  
低学年になるほど技術が未熟な為に頻発します。その場合レフリーはいつも反則を取るのではなく、試合中一貫した基準であれば、軽度なものはプレーを継続させても良いでしょう。
- (b) レフリーの位置がボールと平行でないとはっきり見えないので、常にポジションニングに注意するようにします。  
ボールと平行にいることはどのレベルの場合でも大事なことです。

## 3. インゴール In-Goal

- (a) インゴールではモール・ラックは終了します。  
モール状態のままインゴールに入りトライにならなかったら早めにアンブレアブルにして、攻撃側ボールでスクラムにします。(ヘルドアップインゴール)
- (b) また、トライかキャリーバックか判然としない場合も同様に、攻撃側ボールでスクラムにします。  
レフリーはできるだけインゴール側に入ってボールを確認するようにします。
- (c) インゴールでトライかノックオンか微妙な場合があります。  
技術が未熟な為や、トライできる嬉しさからノックオンする場合がありますが、明らかにノックオンと認められる場合と相手側にタックルをされたためにノックオンをしたのでなければトライにします。  
デッドボールラインを越えてしまった場合もトライにします。ボールキャリアが何処にトライをするのか分からないようでしたら、レフリーはインゴールにプレーヤーが入ったら“ボールを置いて” “そこでトライだよ”と声をかけてあげるようにします。

## 4. モール Maul

- (a) モールは、ボールを持っているプレーヤーが、相手側の1人またはそれ以上のプレーヤーに捕らえられ、ボールキャリアーの味方1人またはそれ以上のプレーヤーがボールキャリアーにバインドしているときに発生します。  
従ってモールは3人以上で形成されます。プレーヤーは立っていなければな

りません。

よく見かける例ですが、ボールキャリアーと相手側の複数のプレーヤーで団子状態になっているのをモールとしているレフリーがいます。これは、コンタクトが起きているだけでモールにはなっていないことに注意してください。

- (b) モールが形成されたとき、レフリーは“モール”と声をかけます。  
モールが動いている場合は少し様子を見ますが、ボールが出る気配がないのなら安全の為、アンプレアブルにします。
- (c) モールが変な崩れ方をすると非常に危険です。モールが前進していても、崩れる前に笛を吹くようにしてください。
- (d) ボールが明らかに出そうもないと判断したときは時間に関係なく、直ちにアンプレアブルにします。レフリーはボールを見るためモールの周囲を移動して状況を確認しなければなりません。
- (e) モールがアンプレアブルとなりスクラムで再開するときは、モール開始時にボールを持っていなかった側がボールを入れます。  
モール開始時にどちらがボールを持っていなかったかわからない場合は、モールが停止する前に前進していた側がボールを入れます。  
どちらも前進していなかったときは、攻撃側（相手陣内でプレーしている側）がボールを入れます。
- (f) モールに参加しているプレーヤーはバインドしていなければなりません。  
よく見られる手のひらで押しているのはバインドをしていることになりません。
- (g) モールのオフサイドラインはモールを形成している最後尾のプレーヤーの足の位置です。  
モールの横に立っているプレーヤーはオフサイドの位置になります。  
レフリーは“後に回って” “下がって”と声をかけてください。  
オフサイドの位置にいるからといって反則ではありません。  
ただし、その位置から相手側に動くと、オフサイドとなります。  
モールに対して参加しようとするプレーヤーはオフサイドの位置から参加しようとしてはいけません。必ず味方の最後尾のプレーヤーの後方から参加

するようにさせます。

- (h) モールの終了は
- ・ ボールを持ったプレーヤーがモールから離れたとき。
  - ・ ボールが地面に置かれたとき。（ラックになります）
  - ・ ボールがパスされたとき。（最後尾のプレーヤーがボールを持ちハーフがそのボールに手をかけている状態はまだモールです）
- (i) レフリーの立つ位置は、モールもラックも
- ・ 最初に近づいてボールの位置を確認します。
  - ・ 次に反則を見るために動き、
  - ・ さらにボールの出そうな側で近づきすぎない（1 から 2 メートル）位置に移動するようにします。
- パスコースには入らないようにして、防御側のラインオフサイドを正面に見えるようにします。
- レフリーは判断ができるようにモールの周辺を動かなければなりません。

## 5. ラック Ruck

- (a) ラックとは、双方の一人またはそれ以上のプレーヤーが立ったまま、身体を密着させて、地上にあるボールの周囲に密集するプレーのことをいいます。このとき双方のプレーヤーは立っていなければなりません。従ってラックは2人以上で成立します。
- (b) ラックはタックルポイントで発生することが多くなります。タックルドオフサイドを見たうえでラックになっているかを確認し“ラック”と声をかけます。プレーヤーが重なりあって倒れている状況であれば危険防止のため直ちにアンプレアブルにします。また、ボールが明らかに出不いと判断したときもアンプレアブルにします。
- (c) ラックがアンプレアブルとなりスクラムで再開するときは、アンプレアブルとなる直前に前進していた側がボールを入れます。アンプレアブルとなる直前に、どちらも前進していなかったり、どちらの側が前進していたかわからないときは、ラックの前に前進していた側（ボールを持ち込んだ側）がボールを入れます。（モールの場合とは反対です）どちらの側も前進していなかったときは、攻撃側（相手陣内でプレーしてい



- る側) がボールを入れます。
- (d) ラックのオフサイドラインはモールと同じく組みあっている最後尾のプレーヤーの足の後ろです。  
ラックの横に立っているプレーヤーはオフサイドの位置になります。  
モールと同じようにレフリーは“後に回って” “下がって” と声をかけてください。  
この位置からは相手側に働きかけることはできません。  
ラックに参加しようとするプレーヤーは必ず味方の最後尾のプレーヤーの後方から参加するようにさせます。
- (e) ラック内のボールは手を使って処理しようとしてはいけません。  
ハンドの反則となります。  
罰 ハンド・ペナルティキック  
レフリーはプリベントコール“手を使わないで” 等で反則をさせないようにすることも大切です。
- (f) ラックの中または近接しているところに倒れているプレーヤーは直ちに立ち上がらなければいけません。  
また、このプレーヤーを踏みつける行為は反則です。  
罰 スタンピング・ペナルティキック
- (g) ラックの終了は、ボールがラックから出るか、ラックの中のボールがインゴールに入ったときです。
- (h) レフリーの立つ位置はモールと同じです。

## 6. タックル Tackle

- (a) タックルは一人または複数の相手プレーヤーに捕らえられ、地面に倒された場合に成立します。  
捕らえられていなければタックルされたプレーヤーとはなりません。  
また、相手を捕まえて倒したが自分は倒れていないという場合には、そのプレーヤーはタックラーにはならないので、オンサイドの位置にいったん戻り、ゲートインをしないとプレーに参加することは出来ません。  
タックルポイントでは様々な反則が発生します。ポイントには素早く行き、近くで見ないようにしてください。

レフリーの立ち位置は、モール・ラックと同様になります。

(b) タックルでの確認事項と順番を整理しておきます。

- ・①タックル成立の確認
- ・②タックラー（複数の場合もある）の確認
- ・③タックルされたボールキャリアーの確認
- ・④（両チームの）アライビング・プレーヤーの確認

ほぼ同時に起こりますので、頭の中で整理をしておき、いつボールが出なくなったのかを判断するようにします。

(c) タックルが成立したあとタックラーは次のことを行わなければなりません。

- ・タックルが成立したら、タックルされた（相手側）プレーヤーを直ちに離さなくてははいけません。

そして

- ・直ちに立ちあがるか、ボールから離れるようにしなくてははいけません。

- ・ボールをプレーする前に、まず立ち上がらなくてははいけません。

- ・複数のタックラーの場合にも、この義務行為は適用されます。

レフリーは“離して”と声をかけます。

離さなければホールディングの反則です。

罰 ホールディング・ペナルティキック

(d) タックルされたボールキャリアーは即座に次のいずれかを行わなければなりません。

- ボールをパスする

または

- ボールを放す

- ボールをいずれかの方向に置く

- ボールをいずれかの方向に（前方を除く）転がす

そして

- 直ちに立ち上がるか、あるいは転退する

レフリーは“ボールを放して”と声をかけます。

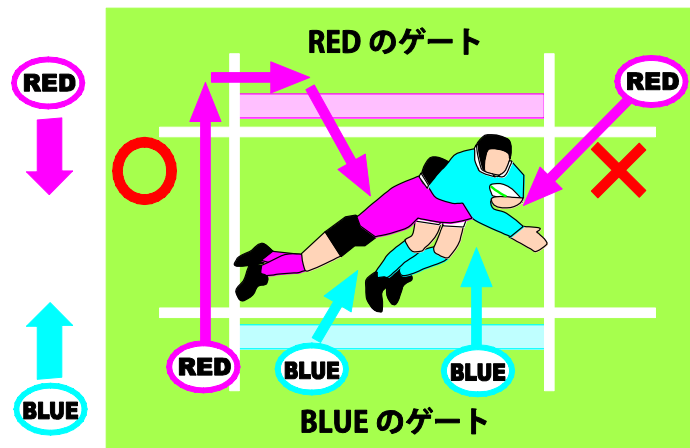
放さなければノットリリースザボールの反則です。

罰 ノットリリースザボール・ペナルティキック

ボールを転がした場合はイーブンボールとなり、双方のどのプレーヤーも自由に働きかけができます。

- (e) 繰り返しますが、タックルされたプレーヤーとタックラーは直ちに立ち上がらなくてはなりません。立たなくてはプレーできないということを再確認して、子どもたちにも教えます。  
レフリーは“立って”と声をかけます。  
いつまでも立ち上がらず、プレーの邪魔をしている場合は反則となります。  
罰 ライイングニアザボール・ペナルティキック  
ボールをコントロールできないように上からかぶさっているケースも反則となります。  
罰 ライイングオンザボール・ペナルティキック
- (f) アライビング・プレーヤーが立っている状態であるためには、足以外のどの部分も、身体を支えるために、地面やあるいは地面に倒れているプレーヤーに接してはいけません。  
罰 ノットステイオンフット・ペナルティキック  
アライビング・プレーヤーが自分でしっかり立っているのであれば、姿勢を安定させるためだけに、地面や地面に倒れているプレーヤーに手を置くことは許されます。  
最初のアライビング・プレーヤー（どちらのチームであれ）は立っていればタックル地点のボールを手で奪ってもかまいません。しかし、もし両方のチームのプレーヤーが手でボールを奪おうとしていて両者の身体が接触している場合には、それはラックとなるので両者ともボールを手で扱ってはいけません。  
罰 ハンド・ペナルティキック
- (g) タックルが発生した地点に対し、故意に、または意図的にダイビングまたは倒れ込むプレーは反則です。  
罰 オーバーザトップ・ペナルティキック
- (h) タックル地点には、後方から入らなければいけません。急いで前や横から入ってきてはいけません。  
タックルシュチエーションでは仮想のタックルボックスが作られ、その自陣ゴールラインに平行な一辺のゲートからしかプレーに参加できません。  
罰 オフザゲート・ペナルティキック

## タックルドボックス



## 7. アドバンテージ Advantage

- (a) 最初のうちはアドバンテージを上手く取れないことが多いのですが、定義に従ってプレーを継続させる為のものであるということを再確認してください。

反則を見ていきなり笛を吹かずに一瞬“間”をおいて吹くようにしていくと、徐々にアドバンテージが取れるようになります。

- (b) アドバンテージの解消は、レフリーをはじめた頃は大まかな目安として5メートル進んだ地点で解消と考えたら良いでしょう。（これはあくまでも目安です。）

アドバンテージが生じたら“ノックオン(反則名) アドバンテージ”とコールして、アドバンテージを取っているあいだは、アドバンテージを得ているチーム側に手を真横に上げ続けます。

ただ、ミニラグビーの場合“アドバンテージ”のコールによってプレーを止めてしまう場合があります。その場合は“続けて”と声をかけます。

また解消した場合は“アドバンテージオーバー”と必ずコールをし、上げていた手を下ろします。

- (c) アドバンテージの運用は、レフリーのみが判定者で裁量権を持っていますので、基準が終始一貫していることが大切になります。

- (d) 危険なプレーの場合はアドバンテージを取らず直ちに笛をふきます。トライ寸前に危険なプレーが起これば、ペナルティトライにします。

## ■ゲームマネジメント Game management

### 1. コミュニケーション Communication

#### 1-1. ホイッスル（笛）の吹き方 How to use whistles

- (a) 軽度な反則とペナルティの場合とは明らかに異なる強弱をつけるようにします。
- 長く強い笛を吹く場合はペナルティとキックオフ、トライ、ゴール、ハーフタイム、ノーサイド。
- 短い笛は、スクラムになる軽度の反則（ノックオンやスローフォワード等）、タッチです。
- 上手くなれば同じ長い笛でもペナルティとキックオフ、トライのそれぞれの場合でも笛の音色が変わってきます。
- そして、隣のグラウンドにも聞こえるような大きな音で吹くことを心がけてください。蚊のなくような小さな音は、レフリーが自信なさそうに見えてしまいます。

#### 1-2. 声かけ Call out to player

- (a) ミニ・ラグビーのレフリーは出来るだけプレーヤーに声をかけるようにします。勿論大きな声を出してください。
- すばらしいプレーを子どもたちがしたら、レフリーも“ナイストライ” “ナイスパス” “ナイスタックル” といった声をかけてあげるのがいいでしょう。他にも“なんでもないよ” “続けて” “早く出して” 等、常に子どもたちに声をかけることを心がけてください。

#### 1-3. レフリーシグナル Referee signals

- (a) 反則があった場合、それがどのような反則であったかがプレーヤー及び周辺の人たちに判るようにレフリーシグナルで現わします。
- レフリーシグナルは日本協会発行の競技規則に掲載されています。
- 最初は恥ずかしいものですが、笛の音と同じで照れくさそうにシグナルをすると自信なさそうに見えますので、出来るだけ堂々とジェスチャーをしてください。

#### 1-4. 良い位置にいる為に For good positions

- (a) キックオフ時には、キックと同時にいったんゴールラインへ向けてまっすぐ走り、その後ボールの落下点に素早く寄るといように、タッチラインと並行にボールを見る位置取りを意識します。
- (b) スクラム、ラインアウトではボールのうしろから遅れずにスタートします。早くボールと平行な位置まで追いついてください。
- (c) 一般のプレーでも、常にボールと平行な位置にいるようにします。何処にいるよりも反則が見えやすい位置になります。  
ボールを持っているプレーヤーより前を走らないようにします。  
インゴール直前では、トライを確認しやすいように前に回り込むこともあります。
- (d) ボールを見るためにボールの近くを走っているようにします。ボールより遠くに位置しないように注意します。  
プレーが進むに従ってレフリーがプレーヤーの邪魔にならないように走っているうちに、タッチライン際に行ってしまうこともありますが、なるべくオープンサイドにいるようにします。
- (e) ボールラインランニング  
現在はボールラインランニングといって、ボールを基準に半径1～2mのなかでボールの軌跡をたどるように走ることが推奨されています。  
この走り方が、無駄が無く、いち早くブレイクダウンに到達することができるランニングのコースになるからです。

#### 2. コントロール Game control

- (a) ミニラグビーだからといって、決してレフリングを疎かにすることは出来ません。かえって大人の試合のレフリーよりも、レフリーとしての責任は重いものがあると思います。コーチの方なら既にお分かりの事なのですが、その第一は安全の確保です。試合での子どもの怪我を防ぐのがレフリーの一番の義務です。これだけは忘れないでください。二点目は子どもが将来に渡ってラグビーを続けていってくれるように、ラグビーをプレーする喜びを教えること。この二点を念頭に置いてレフリーをしていただければ、きっとすばらしいレフリングになると思います。

- (b) それには、子どもたちを教えながら思いやりをもって笛を吹ければベストな  
のです。

危険なプレーまたは危険な状態が予測される場合は直ちにプレーを止めま  
す。例えばハイタックル、パンチング、モールが崩れたときなど、安全が確  
保できない場面をいち早く察知して試合を止めるようにしてください。そし  
て大切なのは、子どもたちにどうして危険なプレーなのかを必ずその場で説  
明してあげることです。コーチが早いリスタートを要求することがありますが、  
安全のため必ず説明の時間をとるようにしてください。

- (c) ルールの適用では、首尾一貫していることが前提です。

反則を取るレフリングではなく、反則をさせないように良いプレーに導くよ  
うなレフリングに心がけるようにします。

### 3. タッチジャッジとの連携 Team of three

- (a) コーナーでトライかタッチか判然としないときがあります。

タッチジャッジに確認をとるようにしてください。

時計の押し忘れがあったときなど時間が判らなくなったらタッチジャッジ  
に残り時間を確認してください。

- (b) タッチジャッジにレフリーが依頼した場合は、レフリーの見えないところで  
危険なプレーなどが行われたとき、タッチジャッジがフラッグをあげます。  
次にプレーが止まったらタッチジャッジの報告を聞いてください。

## ■その他 Others

### 1. 5メートルルール 5 meters rule

- (a) ゴール前ではすべてのセットプレーは5メートルルールが適用されます。自陣ゴール前は勿論、相手陣ゴール前でもゴールラインから5メートルの位置でプレーを再開します。スクラム、ラインアウト、ペナルティキック。攻撃側がゴール直前でペナルティを犯した場合、相手側はクイックスタートをしてはいけません。

### 2. フライキック Fly-kick

- (a) 見境のないコントロールされない無目的のキックです。闇雲に地上にあるボールを蹴ったり、密集で地上にあるボールを蹴り合う場合です。キックが行われた地点で相手側のスクラムになります。

罰 フライキック・スクラム

キックオフ等でボールを取りそこね、足に当たった場合はフライキックとはしません。

また、低学年では、プレーの開始・再開のためのタップキック以外のキックは禁止されております。同様に、キックの行われた地点で相手側のスクラムとなります。

### 3. ペナルティキック・フリーキック Penalty kick・Free kick

- (a) ボールを地上に置いてチョン蹴りです。クイックスタートをしても構いません。

危険なプレーの後とノット5メートルバックのペナルティでは、クイックスタートはさせずに、防御側の態勢を整えてからキックさせます。

### 4. 危険なプレー Dangerous play

- (a) 相手側プレーヤーを、殴ったり、蹴ったり、踏みつけたりすることは危険なプレーです。

罰 パンチング/キッキング/スタンピング・ペナルティキック

- (b) ハイタックル

15人制では、相手側プレーヤーの肩の線より上へのタックルが危険なプレーですが、ミニラグビーの場合、相手側プレーヤーの脇の下の線より上へのタックルを危険なプレーと考えます。勿論、相手の頸部や頭部へのタックル



は危険なプレーです。

罰 ハイタックル・ペナルティキック

(c) スティフアームタックル

スティフアームタックルは、ハイタックルとは異なります。

腕を棒のように硬く固めて相手を打ち付けるタックルです。相手プレーヤーの身体ならどの部位でも関係なく、危険なプレーです。

罰 危険なタックル・ペナルティキック

(d) アーリータックル（早すぎるタックル・ノーボールタックル）

主にバックスラインで起きます。見込みでタックルする場合です。

罰 アーリータックル・ペナルティキック

(e) レートタックル（プレー終了後のタックル）

パスまたはキックしたプレーヤーに対し、プレー後に行なうタックルです。特にキックしたあとのタックルは非常に危険なプレーです。レフリーはボールを目で追う前に、レートタックルの発生を確認してください。

罰 レートタックル・ペナルティキック

(f) 空中にいるプレーヤーにタックルする行為

空中にあるボールを取る為に、飛び上がっているプレーヤーにタックルすることは大変危険です。

頭から地面に落ちることもあります。

今まで例外で扱われていた、トライをするために飛び込んでいるプレーヤーをタックルすることも、2005年度から危険なプレーとしてペナルティになりました。

罰 タックルインエアー・ペナルティキック

(g) スピアタックル

プレーヤーをグラウンドから持ち上げて落とす、または、両足がまだ地面から離れている相手プレーヤーを、頭および/または上半身が地面に接触するように落としたり力を加えたりするのは、危険なプレーである。

罰 危険なタックル・ペナルティキック

(h) フェンドオフ

ミニラグビーのルールで規定されていて、腕を横に出して振り、相手を払い

除けるようにするプレーです。

罰 フェンドオフ・ペナルティキック

- (i) ジャージをつかんで引きずり倒すこと・ジャージをつかんで振り回すこと  
後から追いかけているプレーヤーの手が、ボールプレーヤーのジャージの襟  
に掛かれば、引きずり倒さなくても危険なのでペナルティになります。

罰 危険なプレー・ペナルティキック

- (j) 相手を突き倒したり、タッチラインに突き出すこと  
子供の場合はなぐるよりも、両手で相手を突くほうが強力な場合が多いので  
危険です。

罰 危険なプレー・ペナルティキック

- (k) カメラック・スクイーズボール

頭を下げた状態で膝をつき、身体と地面の間にボールを確保するカメラック  
は、首や背骨を傷める可能性が高く非常に危険です。

同様にカメラック状態から脚の間を使ってボールを出すスクイーズボール  
も危険です。

罰 危険なプレー・ペナルティキック

- (l) ボールを持っているプレーヤーが故意に肘・膝を前に出して相手にあたるこ  
とは危険なプレーです。

子どもでよく見られるのは、肘を突き出した状態で身体を回転させ、相手を  
払い除けるプレーです。

罰 危険なプレー・ペナルティキック

- (m) キャバルリー・チャージ

低学年・中学年においては、「防御側のスクラムオフサイドラインがスクラ  
ムより3メートル下がっていることをいいことに、スクラムからボールが出  
る前に攻撃側のプレーヤーが後方より勢いをつけて走り込み、ハーフバック  
からフラットなパスを受けて突進を試みるプレーは、ペナルティキックまた  
はフリーキックにおけるいわゆるキャバルリー・チャージに相当し、競技規  
則に反するプレーである。」と定義されます。

罰 危険なプレー・ペナルティキック

なお、高学年では、攻撃側にもスクラム最後尾から3メートルのオフサイ  
ドラインが設けられているために、このようなプレーは起こりえず、起こった

場合はオフサイドの反則となります。

## 5. 高学年（5／6年）、中学年（3／4年）、低学年（1／2年）とのルールの違い Difference of rule at the u12, u10 and u8

- (a) 高学年（5／6年）、中学年（3／4年）、低学年（1／2年）とのルールの違いを確認しておいてください。

神奈川県では、高学年と中学年は、同じサイズのグラウンドを利用するようにしてあります。

- (b) 試合時間

高学年は15分ハーフ、中学年は12分ハーフ、低学年は10分ハーフです。

- (c) 人数

高学年は9人制、中学年は7人制、低学年は5人制です。

- (d) キックオフ

高学年はドロップキックのみ、中学年もドロップキックですが、できない場合はパントキックかプレースキックを行わせませす。

低学年はキックオフの代わりに、タップキックからのパスを行わせませす。

- (e) スクラム

1チーム高学年・中学年は3名、低学年は1名で構成する。

中学年、低学年は、スクラムではボールインをせず、ハーフがフッカーの右足元（つま先の前）にボールを置きます。

高学年はハーフがボールに触ったとき、中学年はハーフがボールをパスしたとき、低学年はハーフのパスをバックスがキャッチしたときがスクラムの解消です。

バックスのオフサイドラインは、高学年は攻撃側と防御側の両方にスクラム最後尾から3メートル、中学年と低学年は防御側のみスクラム最後尾から3メートルです。

- (f) ラインアウト

高学年と中学年は、ラインアウトに並ぶ人数は2名です。

中学年はボールの競り合いはなく、ボール投入側がジャンプしてボールを取り、ハーフバックにボールを渡して、ハーフバックがバックスにパスをします。

低学年はラインアウトを行わず、タッチになった地点よりパスを行います。

## ■タッチジャッジ Touch judges

### 1. 準備 Preparations

- (a) 服装はレフリーと同様の服装をするようにします。
- (b) 旗の用意はタッチジャッジにお願いします。  
時計もレフリーと同時に計測を行うようにするので、レフリーと同じように金属製の腕時計・バンドは子どもたちを傷つける可能性がありますので着用をさけ、ストップウォッチ、タイマー機能のついた薄めの腕時計をするようにします。
- (c) トスが終了したら、自分のチームの子どもたちの服装をチェックします。  
トスの時に注意点等が競技委員やレフリーからあったら、子どもたちに伝えておきます。
- (d) タッチジャジはレフリーと共にチームオブスリーと呼ばれるレフリー団です。タッチラインから大声で子どもにコーチングするのではなく、タッチの確認とルール違反や危険なプレーが無いかを見ているようにします。

### 2. セットプレー Set play

- (a) タッチラインから見て自分のチームが右側に見えるサイドに立ちます。
- (b) キックオフでは、防御側の5メートルラインを、旗を持っていない手を水平にあげて示します。  
ラインより前に出ている子どもには“下がって”と声をかけてください。  
キックオフと同時に時計をセットしてタイムを計るようにします。
- (c) スクラムでは、高学年は自分のチーム側、中学年と低学年は防御側のボックスのオフサイドラインで、キックオフと同様に旗を持っていない手を水平にあげて示します。  
防御側のボックスのオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方プレーヤーの一番後方の足から3メートル下がったゴールラインに平行な線です。  
ラインより前に出ている子どもには“下がって”と声をかけてください。
- (d) ラインアウトでも同じように、自分のチーム側のボックスのオフサイドラインで、旗を持っていない手を水平にあげて示します。

ボックスのオフサイドラインはラインオブタッチから5メートルです。  
ラインより前に出ている子どもには“下がって”と声をかけてください。  
投入側のタッチジャッジもタッチの地点をレフリーが確認したら、ボックスのオフサイドラインの位置に立ちます。

- (e) ペナルティキックとフリーキックの場合も、防御側の5メートルラインを、旗を持っていない手を水平にあげて示します。  
ラインより前に出ている子どもには“下がって”と声をかけてください。

### 3. 旗を上げるとき Put up flag

- (a) ゴールキックが行なわれる場合には、タッチジャッジは、それぞれゴールポストの下、および後方に立って、ボールがクロスバーを越え、ゴールポストの間を通った場合には、旗を上げてゴールを合図します。  
ノーゴールの時は、そのまま旗を横に振る必要はありません。
- (b) タッチジャッジは、ボールまたはボールキャリアーがタッチになった場合に、旗を上げます。プレーヤーはゲームに夢中になっている為、タッチになった場合はタッチジャッジが“タッチ”とコールするとプレーヤーとレフリーに分かりやすいでしょう。  
ボールを投げ入れる地点に立ち、投げ入れる権利があるチームの方に腕を水平に上げて示します。ボールまたはボールキャリアーがタッチインゴールに入った場合にも、合図しなければいけません。
- (c) キックされたボールがダイレクトタッチになった場合は、頭上に、タッチラインに平行にして両手で旗をささえることで、ダイレクトタッチであることを示します。
- (d) タッチジャッジがレフリーから依頼された場合は、危険なプレーあるいは不行跡のあったことを、レフリーに合図するため、旗を水平にタッチラインと直角にフィールドに向かって上げます。  
上げた後プレーが継続されていれば、ボールと共に動きその後のタッチや反則を診るようにします。  
プレーが停止すれば、タッチジャッジは競技区域に入り、レフリーに旗を上げた反則を報告することができます。

## ■あしがき Afterword

最後までお読みいただきましてありがとうございます。

我々も初めは皆さんと同じ初心者でした。試合が終わると、今レフリーをした試合のミスジャッジが気になったものです。満足の行くレフリングの出来た試合も片手ぐらいです。期待はしていませんが誉められることは殆んど無く(いや全く無い!)、たいてい文句を言われ、何度となく落ち込みながらもどうにかこうにかレフリーを続けてきました。

それは、やはり子どもたちの笑顔が見たかったからなのだろうと、いまこれを書きながら思っています。笑顔だけでなく、負けて悔しくて泣き出す子の涙もまたすばらしいものです。レフリーをした試合で、笑ったり泣いたりしてくれた子どもがいてくれたことが、我々の誇りだと思えます。

皆さんも是非ミニラグビーのレフリーになってみてください。

この資料の作成にあたっては、各スクールのコーチソサエティの方々に監修いただきました、

この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

神奈川県ラグビーフットボール協会 普及育成委員会

ラグビースクール担当 コーチソサエティ(CS)部会 和田 修司

### 2011年度 コーチソサエティ(CS)部会担当者

麻生RS 大森 昇/山本慎一 厚木RS 小野 卓也 海老名RS 平岡 潤一郎  
海老名RS 伊藤 敦 鎌倉RS北嶋 裕 川崎市RS長谷川 健  
グリーンRS 永沼高俊/和田 修司 相模原RS 柿内 誠  
茅ヶ崎RS岡部 健次 田園RS佐藤 茂隆/浅野 毅 秦野RS尾形 利治  
藤沢RS宮台 善朗/小池 富士男 大和CCRS 小西 康夫/松田 光太/山口 隆宏  
横須賀RS石戸 正巳 横浜RS細山田 民人 横浜YCRS池田 剛/脇山 靖史